

関西民放クラブだより

大仏さまの須弥壇に上る

山口 志郎(KTV)

奈良の大仏といえば、修学旅行などで訪れた方も多いと思う。

鹿が遊ぶ奈良公園にある東大寺・大仏殿に、大仏さまは約1300年間、座っておられる。

その須弥壇に上らせてもらった。須弥壇とは、大仏さまが座っておられる蓮華座(台座)がのついている高さ約2メートル、1周約70メートルの石造りの台である。



欄干の内側が須弥壇

今回、僥倖ともいえる機会を作ってくれたのは、奈良にある国立大学の先生である。先生の勤める大学のキャンパスを昼下がりに出

発、志賀直哉旧居を経て春日山原始林に入り「ささやきの小径(下の禰宜道)」を辿ると、深みのある「丹(本朱)塗りの春日大社の本殿群が現れる。

式年造替できれいに修復された国宝・春日造りの本殿には、四柱の神様がそれぞれ鎮座されている。

鮮やかな朱色の回廊を通って祭神にお参りしたあと、若草山の麓から「お水取り」で知られる二月堂を経て大仏殿へと向かう。

さて、ここからが本番である。寺の人の特別な案内で回廊を渡って大仏殿へ、いつもと違うアップロ―チに高揚感がある。

廊下を歩きながら東大寺創建、大仏造立にまつわる話など聞きながら正面入り口に至る。

まずは、大仏さまに礼拝。右手へ進み履物をかえて急な階段を上り壇上で焼香、瞑目して祈る。静かに目を開けると、そこは静寂の世界。仏さまを間近に感じながら進むと蓮華座の蓮弁があった。

奈良時代に青銅で铸造され、1300年を経てもなお黒く艶があり緑青にも趣がある。開眼供養当

時は金色に輝いていたというが、今の方が仏さまの荘厳さを感じられていいと、私は思う。



大小の蓮弁(レプリカ)

蓮弁は大小合わせて28枚あり一枚一枚に線刻画がある。タガネで彫られたというが、村上華岳の仏画のようなきれいな線である。

構図はすべて同じで、大仏さまの世界観「蓮華蔵世界」が描かれているという。目を凝らすと、一番上には説法する釈迦如来を中心

に菩薩、その下には幾本もの線が引かれ、間に小仏、宮殿が点在、一番下には、山、宮殿、釈迦三尊、動物が描かれた七対の蓮弁がある。

冊子『東大寺』によると「鳥の声、花の色、水の流れ、雲の姿すべてが生きてし生けるものを救おうとされるビルシヤナ仏(大仏)の説法」だそうで、私たちは大仏



蓮弁の線刻画(レプリカ)

の世界に生きていて、世に起きる現象すべてが、大仏さまからのメッセージということらしい。

しかし、私などは、せつかくのありがたい説法にもほとんど気づかないでいる。

壇上に立って、大仏さまを静かに仰ぎ見ると半眼の慈悲深い眼差しに、こころが安らぐ。

みなさまも機会を作って、一度、大仏さまに会いに行かれてはいかがだろうか、きつと新たな感慨があると思う。もし可能なら、大仏殿の棧唐戸(唐破風の下窓)が開かれ、顔が外から拝める元旦と万灯供養会(8月15日夜)がおすすめである。

*通常、須弥壇へは上れません。お寺への問い合わせはご遠慮ください。